

第7回 アレクサンドロス後のロードス島 – 地震で倒壊した古代の不思議

紀元前4世紀の中頃、怒濤のごとくアナトリア、ペルシア、シリア・パレスチナ、エジプトからインドにいたるオリエント世界を制覇したマケドニアのアレクサンドロス大王。そのあつけない死によって残された大帝国版図は、数十年にわたる内部抗争の末に四つの王国に分割された。マケドニアのアンティゴノス朝、アナトリアのリュシマコス朝、シリアのセレウコス朝、そしてエジプトのプトレマイオス朝である。いずれもギリシア人の支配層とギリシア文明（宗教・美術）を引き継いでいた。

さまざまな政治抗争や王朝の興亡の末に、紀元前30年にローマがクレオパトラのエジプトを倒して地中海全域を制覇するまでの約300年間をヘレニズム時代と呼ぶ。世界史におけるヘレニズム時代の主役は、ホメロスの時代から変わらぬ葡萄酒色の海（エーゲ海）だった。エーゲ海は、アテナイとマケドニアがまだ活力を保持している文明伝搬の中心地ギリシアと、豊かなオリエント新興諸国のあいだにあるという恵まれた位置を占めていた。この海にはおびただしい数の島があるため、統一国家を形成するにはいたらず、つねに交易の舞台、文明の交差点だった。



リンドス（ロードス島）の古代遺跡（1994年撮影）

エーゲ海の南東端に浮かぶ小さな島、ロードス島が地中海交易の中心地になったのはその地理的な条件に負うところが大きい。すぐ北にはアナトリア半島が見え、東側には文明の先進地域シリア、南は食料が豊かなナイルデルタが控える。西方のローマが次第に力を増してギリシア世界を席卷するなかで、ロードス島はエジプトのプトレマイオス朝と手を結んで東地中海海運の安定に貢献した。というのは、古代から海運交易には海賊がつきものだったからだ。まさに海賊行為は地中海の風土病だった。貧しくて山の多い地域に住む多くの海岸の民族は、見張り台の高みから海を監視し、沖をゆく豊かなエサがみつかりと急いで自分たちの船に乗り込み、それを襲撃するという習慣をもっていた。海賊（英語でpirate）の語源はギリシア語でpeiram（試みる）、つまり「海上で一攫千金を試みる」の意味だという。ギリシア人もフェニキア人もこの職業と戦い、前5世紀にはアテナイが海の治安を確保し、アレクサンドロス後の前3世紀にはその役割がロードス島に引き継がれたというわけだ。

ロードス島は地中海における小麦と葡萄酒の大貿易センターとなる。その関税収入は前5世紀のアテナイに比べて約5倍ほどの多額なものだった。ロードス島の港は広くてよく保護された場所にあり、その入り口には古代世界七不思議の一つに数えられる「ヘリオスの巨像（コロッソス）」（高さ50m）が立っていた。防波堤の突端に立つコロッソスは航海者にとって有名な航海目標だった。シェイクスピアの名作「ジュリアス・シーザー」にその話が出てくる。ブルータスの仲間であるキャシアスが群衆に囲まれたシーザー（カエサル）の影で発する台詞だ。「おい、いいのか、奴は世界せましと立ちはだかっているのだぞ、あのロードス島の港に両脚かけてそびえ立つ巨人像のように。そしておれたち、けちくさい人間どもは・・・」（福田恒存訳）。シェイクスピアは後代の人だが、この言葉はヘレニズム時代の精神をよく表している。民衆は、英雄の統治より共和政的な社会を好むものだったのだろう。



ロードス港（1994年撮影）

前3世紀から前2世紀にかけてロードス島はヘレニズム世界の中心といえるほど、経済ばかりでなく法律や文化の知的側面で傑出していた。そこへ突然カタストロフィックな衝撃がおそった。前227年、マグニチュード7.5の地震がエーゲ海東部に発生し、ロードス島の市街地を破壊し多くの人命が失われた。そして港の象徴だったコロッソスも倒壊、海中に没した。しかしこのとき、ロードス島救済のために大がかりなヘレニズム社会の連帯運動が起こったという。エーゲ海の辺境に位置しながら、ローマの有力者子弟が学び、ギリシア彫刻の伝統を受け継ぎ、さらに航海の安全を約束する海商法を作ったロードス島は、エーゲ海周辺に数多く存在する独立心の強いポリスが団結する拠点であることを周辺諸国に示したのだ。震災からの復興も早く、前1世紀にはローマのキケロやカエサルも、若き日にロードス島へ留学した記録が残っている。

ロードス島の面積は1400km²と沖縄本島とほぼ同じ大きさだ。筆者には東地中海におけるロードス島のヘレニズム世界の歴史に果たした役割が、日本海と太平洋の結節点に当たる沖縄の東アジアに占める立場と似通っているように思えてならないのである。

（参考図書）

- H.デシャン（田辺貞之助訳）「海賊」（白水社）1965年
- W.シェイクスピア（福田恒存訳）「ジュリアス・シーザー」（新潮文庫）1968年
- J.ルージュ（酒井傳六訳）「古代の船と航海」（法政大学出版会）1982年
- P.プティ/A.ラウンド（北野徹訳）「ヘレニズム文明」（白水社）2008年
- A.Nur “Apocalypse” Chapter 4（Princeton University Press）2008年